

参考資料

安全管理マニュアルの作成にあたって参考となる資料、本編の補足となる資料を掲載しています。本編と併せて読んでいただき、マニュアルを作成する際の参考にさせていただきたいと思います。

今般の改訂に際し、特に次の3つの資料を新たに追加しました。

体験プログラムの開発や、「受入れ準備段階～体験中の指導の方法～受入れ終了後」という一連の流れの中で、留意をしていただきたいポイントの一覧を掲載しました。作成例として運営計画シートを掲載しましたので、ポイントに留意して、このような計画シートを作成してください。

また近年多くなっているコミュニケーション・マナーのトラブルに対応するため、身だしなみの留意ポイントにも触れています。体験プログラムを開発する時、また普段の受入れ活動のチェックの際に活用いただきたいと思います。

ご要望が多かった、協議会で実際に使用しているマニュアルも事例として紹介しています。今回はご協力を頂いた協議会のマニュアルを2例紹介します。これからマニュアルを作成する時の参考に、既にマニュアルがある協議会はマニュアルの点検・改訂の参考に活用いただきたいと思います。なおこのマニュアルの事例は、参考であることをご留意ください。

協議会におけるマニュアルの作成、改訂の一助となれば幸いです。

～～～ 資 料 編 目 次 ～～～

【プログラム作成にあたっての資料】

- 資料 1 農林漁業体験の進行手順シート
- 資料 2 準備段階での実地調査、模擬体験時の留意ポイント
- 資料 3 運営計画シート（作成例）

【活動段階に関する資料】

- 資料 4 活動実施段階（受入れ時）の留意ポイント
- 資料 5 体験活動場所の点検留意ポイント
- 資料 6 活動実施段階（受入れ中）の注意の与え方留意ポイント
- 資料 7 農林漁業体験フィールドノート

【リスクごとの資料】

- 資料 8 健康チェックシート
- 資料 9 「天候判断」に関するチェックポイント例
- 資料 10 「火災・避難誘導」についてのチェックポイント例

【エチケットに関する資料】

- 資料 11 農林漁家民泊・受入れ家庭の実地調査点検留意ポイント
- 資料 12 農林漁家民宿・民泊の点検留意ポイント（簡易版）
- 資料 13 農林漁業体験指導者の身だしなみ留意ポイント

【活動後の資料】

- 資料 14 活動（受入れ）終了当日の反省会とその後の留意ポイント
- 資料 15 事故寸前回避事例報告書（ヒヤリ・ハットシート）

【安全管理マニュアル事例】

- 資料 16－1 事例 1 北きりしま田舎物語推進協議会
- 資料 16－2 事例 2 北広島農山漁村体験推進協議会

【その他資料】

- 資料 17 お役立ち情報メモ

農林漁業体験の進行手順シート

順	項目	内容・ポイント
1	体験場所の実地踏査	☐ 1週間前と前日に関係者全員で下見をする ☐ 注意事項と危険個所の共有把握 ☐ 携帯電波の状況確認
2	注意事項と危険個所の対策	事故が起きない・起こさないための対策 ☐ 体験プログラム内容の見直し ☐ 雨天時の代替プログラムの準備
3	緊急時の対応と連絡先	☐ 陸の救急:119番 ☐ 海の救急:118番 ☐ 医療機関・救急病院☎: 場所: 事務局☎:
4	前日確認	☐ 現場までの順路 ☐ 天気予報(気象庁とウェザーニュース両方確認) ☐ 参加者の道具類 ☐ 収穫した農産物、魚介類の使途・保存方法
5	当日の準備	☐ 天気予報 ☐ 自分の用意(上段参照) ☐ 参加者の道具類確認
6	体験指導者間の連携	☐ 同じテーマ・目標の共有 ☐ 互いの携帯電話番号: ☐ 注意事項
7	オリエンテーリング (あいさつ、内容の注意事項、全体紹介など)	☐ 歓迎あいさつ(港ではマイクが必要・参加者全員の目を見て話す) ☐ 体験の目的を説明する ☐ トイレ、休憩場所、日陰などを教える ☐ 全体のスケジュール説明 ☐ 注意事項説明
8	グループ分け	☐ 1名の体験指導者に5～7名までを基本にグループ分けをする ☐ 分けたグループ別に体験指導者を囲む形で円陣の形になる
9	体験指導者の自己紹介	☐ 名札をつけ自己紹介をする(ニックネーム、好きなことを解りやすく)
10	参加者自己紹介	☐ 名前と好きなことを話してもらおう※両親のことや家族の構成などは聞かない
11	参加者の安全確認	☐ 人数・名前把握 ☐ 準備運動をして、筋肉をほぐす ☐ 足元(靴)、手先、目など健康チェック ☐ 水の体験は救命具を着用させ、股下や留め金具の状態を点検する ※靴:漁業体験で、船を利用する場合は運動靴は滑る ※靴:農業体験で、ぬかるみに行く場合は長靴に履き替えさせる
12	説明を聞かない参加者への注意喚起	指導者の話をきかず落ち着きが無い、ちょっかいを出して場を乱す参加者への注意の与え方は静かにさせ、都度意味を伝え、危険性や意味を教える
13	体験手順の紹介	☐ 体験作業の意味を話す ☐ 今日の作業スケジュール・時間の説明をする ☐ 道具類は一旦使用目的を教え、実際に使う際に教え感触を理解させる ☐ してはいけないことを具体的に伝え、復唱させる ☐ 完成品や手本を見せながら教える
14	体験開始 体験指導者の模範実技	☐ 名札を見て、全員の名前を呼びあげて理解のチェックをする ☐ 体験進行中、一人でも指示通りに作業が行われていない場合は全体を止め、全員に再確認を行う ☐ いいところを褒める ☐ いくつもの何故を考えさせ発見へつなげる(最初に答えは教えない)
15	休憩	☐ 30分程度を目安に休憩、水分補給をする ☐ さりげなく健康状態をチェック
16	体験再開	☐ 注意事項を再度教え、作業を再開する
17	体験終了告知・点呼	☐ 15分前に終了予告(ここからが要注意時間) ☐ 人数確認 ☐ 体調確認
18	片づけ	☐ 片付けも体験プログラムに含む ☐ ゴミ分別、道具の洗浄、元の場所へ片付けさせる ☐ 次に使う人のことを考えさせ、丁寧にさせる
19	参加者の感想発表	☐ 面白かったこと、難しかったことなど感想を聞く
20	体験指導者・インストラクターの感想・まとめ	☐ 作業をねぎらう言葉をかける(個人ごとに誉める) ☐ 作業以外にももっと面白いことがあることを伝え、農業や漁業に興味をもたせる
21	素材の活用・保存	☐ 収穫した農産物や魚介類が食卓にあがる際の状態を伝える(その日の食事に使う場合は、その献立等を教える)
22	体験指導者・インストラクター間の反省会	☐ 危険なシーンやヒヤリハットを発表する ☐ 参加者の意見・感想のまとめ ☐ 改善点、対処法について ☐ 気づきや提案

準備段階での実地踏査、模擬体験時の留意ポイント

	点検	内容（実地踏査と下見は同意語として表記しています）
体験プログラム		実地踏査は準備段階までに実施する
		実地踏査は参加者の身長、年齢、体力を想定し、現場のみだけでなく周辺も歩いて丁寧に確認する
		地域特有の自然現象、季節現象を把握する（盆地、山間部、海辺、積雪、乾燥地、風など）
		体験プログラムを実施する時間帯と同時刻、同じ道順、同じ内容で行う
		体験によるケガや気温、時間帯による症状を想定して、応急処置の勉強会を実施する
		体験現場での携帯電話の電波状態を点検する
		実地踏査は3ヶ月前、1日前の最低2回と当日朝の確認も実施する
		日没を過ぎる場合、道迷いの想定も考えて実施する
		体験指導者のスキル、体力、年齢なども確認する AEDの使い方、救命、応急手当講習の受講
		体験プログラムのプランニングシートで洗い出したリスクの確認をする
		踏査して問題点がない場合は、潜在する危険や人的要因リスクなどの観点で再度検証する
		体験指導者と関わるスタッフ、事務局全員で行う
		参加できないスタッフがいる場合は写真や動画を撮り、改めて説明し、共有させる
		荒天時のプログラムの実地踏査は荒天時に実施して、内容を確認する
		暑さ対策、熱中症の応急処置を把握する
		落雷時の避難場所、避難できる許容人員、避雷針の有無を確認する
		体験指導者の持病や健康状態を把握する（予備又は応援指導者の確保も想定する）
救急・医療機関		AEDの場所、人口呼吸に使うマウスピースの確認をする
		救急車が必要になることを想定して、呼び方の練習をする
		医療機関の名前、連絡先、場所、休日診療、夜間診療、休診日の確認をする
		体験場所から医療機関までの距離と到達時間を確認する
		休日診療、夜間診療の医師の連絡先を把握する 携帯電話の電波状況確認をする
施設の点検		事前に施設周辺の有害動植物の有無を把握しておき、当日朝も踏査する
		施設周辺の草むらなども歩いて確認し、有害昆虫や蛇などは虫類の駆除及び当日朝も踏査する
		トイレ男女別の種類と数、扉・鍵の状態、トイレトペーパーの予備を把握する
		側溝、用水路、マンホールの確認をする
		体育館の床や壁面はがれ、廊下、通路、柱など手でさわったり足で強く踏んで具合を点検する
		火災報知器の場所確認、消火器の使い方、耐用期限を把握する
		手洗い場、足洗い場の確認、石鹸や消毒液の確認及び数量・内容量の確認をする
		階段の手すり、ガラス、窓枠や網戸の破損、強度の確認をする
		用具倉庫や舞台裏などの危険個所の点検と鍵の有無
		機器道具類の使用方法を試して状態やリスクの想定を把握をする
		夜間照明の確認、スイッチ場所の確認をする
		テーブルや机、いす、ゴミ箱の数量、状態を確認する
		空調機器のスイッチ、電池残量、動作状態を確認する AEDの設置場所と電池を確認する

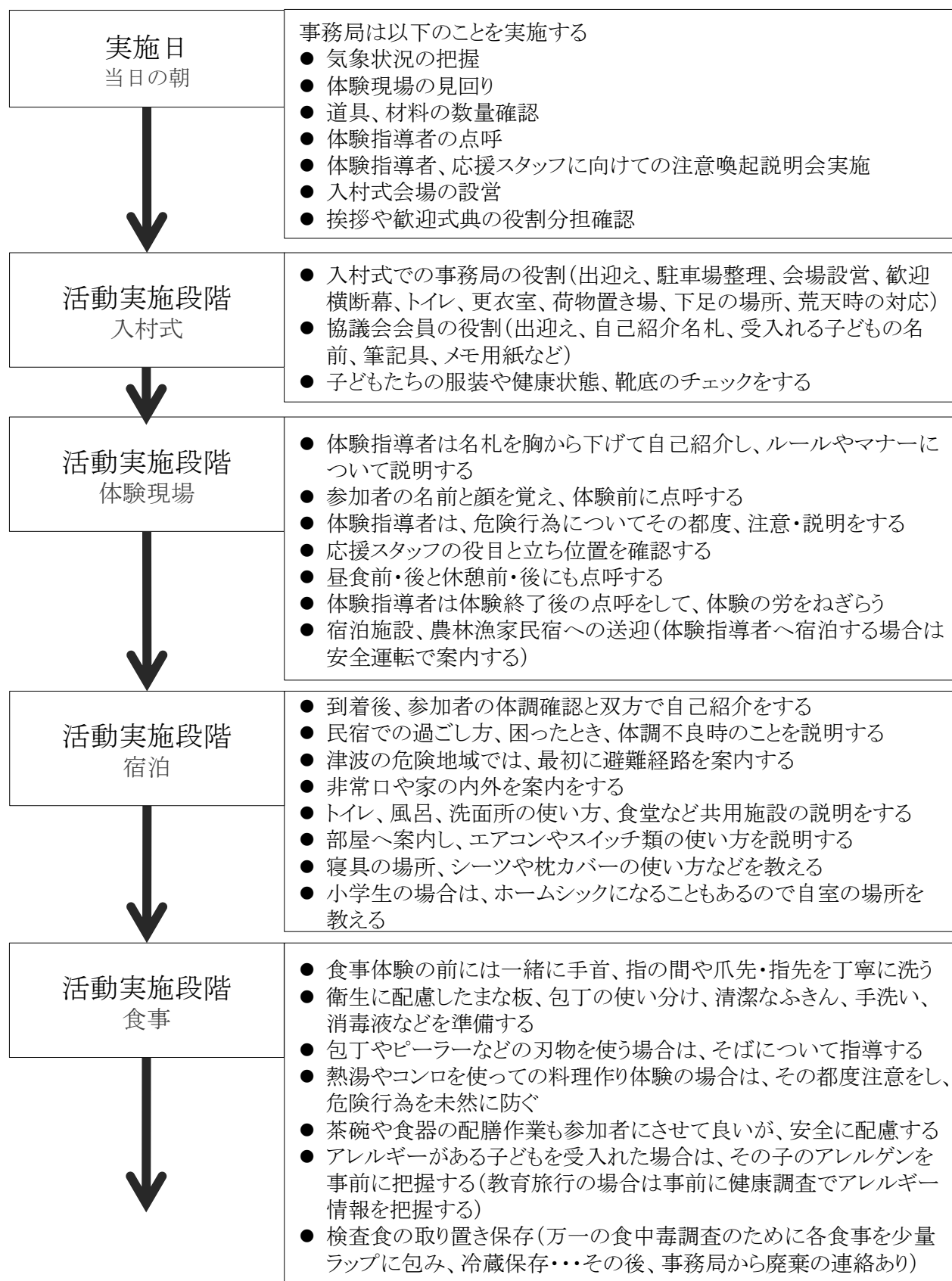
運営計画シート(作成例)

企画協力 : なばな体験会
 イベント企画 : 地産地消・食育専門部会
 旅行企画実施: O×観光

実施日:平成27年〇月〇日

運営スケジュール(共通)		関係者別行動・対応内容		備考		リスク
時間	実施項目	実施内容	参加者	JA・受地スタッフ	事前準備資材等	
08:30	●JR東京駅1F	受付開始 1階コンビニ前	・大人30名・小人〇名 計31名		東京駅受付にて(山田)	
08:45	●JR東京駅 出発	・貸切バス1台 (OΔ観光バス)	大人男性16名・女性24名 計30名		のぼり旗を用意して 目印とする	・遅刻 ・バス酔い ・忘れ物
09:15	●高速道路	・SA1回休憩	・トイレ休憩			
	●大橋(有料)	・追い越し車線走行	(SAより現地事務局へ連絡入れる) ・中村現地待機8:30			
10:15	●バス到着 (交流施設前)	・バス内待機(説明) ・着替え(同上) ※貸切バスの待機場所の確保	※着後、着替え(菜花収穫ができる服) 着替女性・ヤマトハウス・男性ホワイトハウス予定 ・到着後、車内説明(OΔ)	・参加者の誘導(上田、土屋)	・ハンドマイク(JA) ・荷物置き場案内表示	
10:15	●バス降車	・直売所で買い物・トイレ休憩 ・着替え場所案内	・各自買い物・トイレ	・誘導(鈴木・中村)	・携帯ハンドマイクバス積込	・雨天時の対応 ・靴の履き換え ・着替え場所
10:50	●再集合(交流施設)	①開催挨拶(田中部長) ②スタッフ紹介(赤色帽子着用) ③日程・注意事項・なばな収穫手順案内	・全員腰を下ろす(イス) ・班別シール配布	・歓迎・開会の挨拶(田中部長) ・参加者の前に整列・挨拶 ・荷物F配布 買い物袋預かる		
11:00	●園場へ移動	①園場へ徒歩にて移動(約5分) ※なばな体験会代表者挨拶 ②なばな体験会指導	・徒歩にて園場へ移動 ・グループ別にて配置につく ・なばな(なばな体験会指導にて) ・見学(安全な場所にて) ※雨天の場合は時間を短く	・安全に配慮して〇班別に誘導 ・菜花収穫機による実演	・ハサミ ・なばな収穫道具準備 ・農機具(なばな体験会)	・転倒 ・熱中症 ・トイレの敷・増所 ・糞り菌 ・動植物 ・泥アレルギー
12:00	●現地園場出発	・徒歩にて直売所へ	・中村徒歩移動			
12:15	●昼食	・なばな料理レジビ紹介 ・交流施設にて昼食(スタッフ同席にて交流) ・弁当・ペットボトル500CC茶配布 ・次回モニター企画・青空フィットネス案内等 ・参加者アンケート記入・回収	・運営管理(中村・鈴木) ・各洗い場にて汚れを落とし着替え	・進行管理(鈴木) ・なばな料理デモンストラ(土屋) ・屋食弁当配膳(スタッフ) ・青空フィットネス案内(直売所)	・屋食(弁当)準備 ・食虫毒 ・食物アレルギー ・衛生管理	
13:20	●サブライズ収穫体験	・希望者のみ体験	・サブライズ体験 ・他の参加者は自由行動(買い物等)	・進行管理(鈴木)	・500CCお茶ボトル ・青空・モニターパンフ用意 ・鉛筆、アンケート用紙	
13:50	●閉会	①お土産 なばな ②閉会挨拶 ③挨拶(スタッフ全員)	・集合案内(中村) ・挨拶の案内進行(山田)	・閉会挨拶(田中) ・スタッフ全員整列(なばなの会合む)		
14:00	●バス出発	参加者バス乗車	・誘導、人員確認(鈴木)出発 ・見送り(手を振って)			
14:30	●バス降車	・日本橋交差点にて下車	・安全確認 誘導(鈴木・中村) ・中村(車で先に移動待機)	・ボランティアガイド案内(2名) ・事務局(釜田・小鍵)	・事務局1名・バス同乗 バスは市役所駐車場待機予定	
15:30	●バス出発	日本橋Qより (必要に応じてSA休憩)	・人員確認(鈴木) ・車中にてアンケート用紙回収(鈴木)			
17:00	●JR東京駅着	・解散	・解散 御礼に挨拶(次回案内も) (鈴木)			

活動実施段階(受入れ時)の留意ポイント



体験活動場所の点検留意ポイント

分類	項目	実施ポイント
事前実施	体験プログラム	指導者全員で実施予定のプログラムを同時刻に実際に実施して、内容を検証する。体験指導の手順、会話、配慮、休憩時間、必要な道具類、救急セットなどを確認する。
	実地踏査の内容	体験場所への道順、交通量、時間配分、危険箇所、避難経路、携帯電波など万一を想定し、関係者全員で検証した内容と安全対策を共有する。
	時間帯	受入内容と同じ時間帯・状態で実施する。河川・海の体験は午後から天候急変する場合が多いことを想定する。
	悪天候時の対応	天候急変・落雷を想定して雨具などの装備や避難路、危険予知・優先順位の整理などを悪天候時を選んで訓練しておく。
	実地踏査実施日	実地踏査は、受入れ一週間前と前日の2回は必ず実施して、安全確認をしておく。1週間前ができない場合は、前日に指導者及び関係者全員で実施する。参加できないスタッフのために写真を撮り、説明する。
	慢心・何とかなる	慣れた場所、プログラム、作業内容・・・いつもの対応で、つい気が緩みがちになる。この気の緩みが一番危険なので、毎回初めての時の緊張と気配りが重要。
	携帯電話	通話エリアの確認、電波が届かない場所、電池切れでの通信手段を準備しておく。低温による電池消耗も要注意。(体験場所に一番近い民家の固定電話を調べて事情を説明しておく)
	自分自身と家族	自分自身の持病・突然の体調不良を想定、支援する家族の健康状態を把握しておき、万一の場合の対策(代理や代替プログラム)を事前に取り決めておく。
受入当日	指示・復唱確認	指示側と指示を受けて行動する側は、互いに目を見て話す。指示側は、指示した内容の理解を確認するために受け手に必ず復唱をさせ、受け手は、指示された内容を自分の言葉に置き換えて復唱確認する。
	最初の緊張を持続させる	体験指導は、最初の緊張がだんだんと緩くなり、後半だらけてしまいがちになる。体験終了間際の30分が要注意。指導する側全員の緊張持続が重要。
	声を掛け合う	万一、トラブルが発生したら指導者は、全員に声をかけ、安心感を伝える。優先順位は命を守ること。応急処置も大切だが、2次災害防止の配慮もする。
	恐怖心は合唱で和ませる	恐怖が走ると想定外の行動をとり、事故につながる可能性が高くなる。怖い時は、みんなで手をつなぎ童謡や知っている歌を合唱して気持ちを和ませる。
	報告・連絡・相談	体験指導者は、ささいなことでもチームリーダーや受入事務局・会長へ、報告・連絡をする。悩んだり困ったら自己判断せずに相談も！「合言葉は、ハウ・レン・ソウ」
	中止する勇気	天候急変やトラブルが発生した場合は、すぐに体験を中止すること。但し、荒天時は代替プログラムに切り替えて対応すること。雷鳴が聞こえた場合は即座に中止し、安全な場所に退避すること。※1.
	ゆとりのスケジュール	詰込み型や時間制約をする体験は危険なので、1プログラムは3時間以内を目安にする。

※1. 参考: 気象庁雷から身を守るためには<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/toppuu/thunder4-3.html>

活動実施段階(受入れ中)の注意の与え方留意ポイント

■ 体験中の注意の与え方参加者への効果的な指導、伝え方、脅威を感じさせないための上手な叱り方

1. 子どもの行動特徴を事前に勉強しておく。
2. 出合いの最初は、先ずアイスブレイクで和ませ、注意を聞く環境を整える。
3. 自分の子ども時代と、今の子どもを比較してはいけない。今の子どもは、体力や我慢、精神力が大きく異っていることを知る。
4. 危険を伴う体験での注意・指導の与え方は、「行為の都度、その場で行う」。
5. 説明をするときは、遊びまわっていたり、おしゃべりしている子どもを「一ヶ所に集めて」、「静かにさせて」から説明する。
6. 全員の目を見て注意・指導を与え、全員を平等に見張る。
7. 危険を伴う体験は、「なぜ危ないのか」、無視すると「どんなことにつながるのか」を丁寧に説明し、復唱させる。
8. 指摘するときは他人と比較せずに行為そのものを指摘し、良くなれば褒める。

■ 体験指導者が配慮するポイント

1. 子どもの服装、靴底にも気くばりをする。服装は男女ともに長そでシャツ、長ズボン、女性はパンツが理想。靴はスポーツシューズでも良いが、スポーツシューズは靴底が濡れている場合は滑りやすいので要注意
2. 体験場所での注意は、「範囲」を「具体的」に示す。遊ぶ場所の範囲をロープで囲う、高台から見張るなど、より具体的に見張り・見守りをする。
3. 事前に安全対策の道具類(ロープや警笛、目印など)を準備する。
4. 点呼(人員確認)は体験前、体験中、食事・休憩の前後、体験終了後に必ず行う。
5. 注意警告は、指導者(引率者)全員で「危険認識を同じくし」、「役割分担」と「見張り・見守りのルール」を決め、共有する。
6. 指導者は叱ったことや腹が立った行為に対して根に持たない。
7. 何度注意しても改善されない場合は、場所を変え、人を変えて個別に叱る。

■ 食事づくり体験中の注意の与え方

1. 刃物を使う料理や下ごしらえ作業の際は、直前に注意点を具体的に教え、持ち方や動かし方などをゆっくりと一人ずつ個別に指導する。
2. 汁物やフライパンを使う料理では、汁がこぼれてのやけどや具材が溢れることでの危険が予測され、量や温度への配慮が必要。
3. 携帯コンロを使う場合は、コンロよりも大きな鍋や鉄板の使用や2台並べての調理は禁止。
4. バーベキューなどの炭や薪を使う場合は、化繊生地 of 服装へ飛び火によるヤケドや着火剤による事故等が予測されるので、指導者がそばについて管理する。
5. 食事はすべての具材に火を入れることを基本とすること。(生卵、鶏の刺身は提供禁止)

農林漁業体験フィールドノート（体験指導者のリスクマネジメント対策メモ）

年 月 日 インストラクター名：	
インストラクター注意事項	
目的の再確認	本日提供する体験の目的を再確認し、プログラム、役割分担、道具類の再点検
実行前の危険予測 ★ひそむ危険性をいつも考えること ★事故・トラブルを予測して対策をする	●人為的：火災、食中毒、交通事故、機械・自動車故障・事故、生水、やけど 役割分担、刃物使用時のケガ、食品アレルギー ●病気：熱中症、低体温症、持病、アレルギー ●自然災害：天気予報、落雷、地震、津波、がけ崩れ、落石 ●フィールド：ころぶ、すべる、とげ刺し、毒虫・へび、蜂、ムカデ、毒植物、溺れる
体力把握	ハンディキャップ者、アレルギー、持病、体力不足、注意力散漫児童の把握
休憩・トイレ	場所、時間配分、便器数の確認、水分補給場所
手洗い	場所、蛇口数、石鹸有無、食事場所、汚れる体験を考慮
救急箱(体験で中身を交換・有効期限)	☐ バンソウコウ ☐ 包帯 ☐ ポイズンリムーバー ☐ 目薬 ☐ 湿布薬 ☐ ガーゼ ☐ とげぬき ☐ ハサミ ☐ 洗淨水 ☐ ホイッスル ☐ 携帯電話 ☐ タオル
緊急連絡先	電話／携帯／メルアド
☐ 体験場所の 近隣民家・施設	
☐ 地域医療機関	
☐ 救急車：	
☐ 最寄りの警察：	
☐ 引率教師携帯：	携帯： 携帯メールアドレス：
☐ 学校・校長・教頭	電話： 携帯：
☐ 添乗員携帯	
☐ 旅行会社 緊急連絡先	夜間・緊急電話：
☐ 事務局長携帯	
☐ 協議会会長携帯	
人数確認	スタート時☞ 休憩時☞ 終了時☞
班分け	
班長	
フィールドワーク中の 気配り	気分は大丈夫か？ ☐ 顔色チェック
	けがは大丈夫か？ ☐ 靴・足元、手元チェック
	体力的には大丈夫か？ ☐ 声・会話、顔色、足どりチェック
	水分補給 ☐ 水筒、ペットボトル確認
必要な道具準備	準備品☞ 数量☞ 状態☞ 調達先・返却先：
収穫・採集した物の 取り扱い	

体験場所の情報	地域名住所： 状態：
天候	天気： 気温： ℃ 湿度： % 水温： ℃
天候情報観察時間	年 月 日 (曜日) 時間：

健康チェックシート

記入日： 月 日

ふりがな 氏 名		生年月日	年 月 日生 (歳)
		血 液 型	型 ()
住 所			

シュノーケリング器材のサイズ合わせ

身 長	cm	体 重	kg	足のサイズ	cm
-----	----	-----	----	-------	----

乗船体験のチェック

乗物酔	ない・ある	酔い止め薬は 飲ませますか	薬品名と飲む時間 いいえ・はい ()
-----	-------	------------------	------------------------

※各自の薬は各自持参してください。名前を記入しておいてください

宿泊先の民宿へ伝えます

日常起床時間	時 頃	日常就寝時間	時 頃
平 常 体 温	℃	食事所要時間	長め・普通・早い
ア レ ル ギ ー	ない・ある (具体的に書いてください)		
最近一年間の身体状況（かかった病気など） 心臓病 胃腸病 下痢気味 難聴 湿疹 アトピー性皮膚炎 薬品アレルギー 結膜炎 貧血性 小児喘息 感冒 骨折 副作用を起こす薬 () 肝臓病 腎臓病 便秘気味 高血圧 中耳炎 けいれん発作 その他アレルギー 持病など () かかった時期 ()			
健康面や生活面で特に保護者の方が心配されること、希望されること			
本人の趣味や特技、ニックネームなど			

※この健康チェックシートは受入時の参考にするものです。当協議会は、個人情報保護の重要性を認識し、以下の取り組みを実施します。

1. 当協議会が収集した個人情報の利用につきましては第三者に開示及び提供することはいたしません。
2. 個人情報の管理は適正かつ厳重に行います。
3. 当協議会に適用される全ての個人情報に関する法令及び条例、関連業界のガイドラインを遵守します。

【「天候判断」に関するチェックポイント例】

□当日の天候は、いつ、誰が、何により確認・判断することになっていますか？

- 出発時刻だけでなく、数時間後の天候変化まで確認しておきましょう。
- その（天候を確認した情報）資料は、コピーして残しておきましょう。

↓

□それらの天候判断を、いつ、誰から誰に伝えるようにしていますか？

□活動の判断は、誰がどのようにして決定していますか？

□活動中の天候の変化は、いつ、誰が確認していますか？

- その（活動中の天候変化情報）資料は、コピーして残しておきましょう。

※現場の指導者がラジオ・携帯で確認している場合を除く

↓

□活動中の天候の変化は、いつ、誰から誰に伝えていますか？

□中止の判断は、誰がどのようにして決定していますか？

～天候悪化の際の注意点

雷についての例：

- ・ 雷鳴が聞こえたら、直ちに、活動を停止してください。
- ・ 雷鳴が聞こえたら、遠くかすかでも、落雷の危険が生じています。

（事故例）

雷が鳴り豪雨が降り続いていたが、その後雨がやみ、上空の大部分は明るくなりつつあった。遠くに黒く固まった暗雲が立ち込め、雷鳴が聞こえ、雲の間で放電が起きているのが目撃されたものの、雷鳴はもはや大きな音ではなく、稲光がしてから4、5秒以上の時間を置いてから鳴っていた状況では、落雷の可能性はほとんどないと考えてサッカーの試合を再開したところ、約5分後に生徒に落雷があり、重症を負った事故が発生しています。

【「火災・避難誘導」についてのチェックポイント例】

（大型宿泊施設を想定）

当該施設・場所において、火災等により参加者がパニックになった場合どうするのかという「事前の計画」と「日頃のシミュレーション」がどこまで出来ているかが重要です。

① 通報システム、火災認知システム等の設備に問題はないか

② 避難道は確保されているか

- ・ シャッターの付近に障害物が放置されていないか。
- ・ 足を引っかけるものはないか。
- ・ 夜でも分かるように表示されているか。
- ・ 避難道と誤解されるような表示・標識はないか。

③ 避難誘導の方法は確立しているか

スタッフが狼狽すると誘導は制御不能に陥るので、スタッフの訓練が重要。

参考：航空機や客船のキャビンアテンダントが受ける緊急避難訓練も自分が動揺しないこと、動揺していないことを伝えることが重要とされています。

④ 通報の流れは確立しているか

寝ているとき携帯電話はどこに置いているか、責任者の自宅の電話番号を全スタッフが知っているか・登録されているか、待機場所に電波は届いているか、施設内に携帯電話の電波が届かないところがあるか、こういう場面で電源が切れている、バッテリーが切れているということが意外とあります。

⑤ 参加者に対する説明をどうやって行うか

参加者自身が、「これだけ多くの人が一斉に動くとどれだけ危険であるか」ということを理解し、参加者各自が「ある程度心構えを持ち覚悟しておけるか」という心の準備が重要です。

それらを踏まえて、シミュレーション出来れば一層落ち着けますが、現実的に訓練をする時間があるかは難しいところと推測します。

いずれにしても、参加者にとっても時間を問わず・状況を問わず避難することがあり得ること。そのとき多くの人が一斉に避難することがイメージでき、避難が参加者の「意識の範疇」（想定内）になるよう、丁寧な説明が重要です。

参考：飛行機でのビデオによる避難説明

⑥ シミュレーション（模擬訓練）

色々な場面を想定した訓練と、その訓練結果に基づく手順の確認・修正）の繰り返しという基本的な準備を徹底するしかない。

参考：ある団体の取り組み

必ず1名～2名が施設内で夜勤をして、夜中に火災等が起きないように監視し、また起きた場合の避難誘導を速やかに実施できるよう準備している。
（意外に全スタッフが寝ており、夜勤がいないケースが多い場合があります）。

農林漁家民泊・受入れ家庭の実地踏査点検留意ポイント

お部屋	お部屋の清掃
	清潔な窓ガラス、窓枠の安全確認、虫やホコリを除去した網戸
	カーテンの洗濯
	タバコ臭の除去
	寝具の乾燥
	枕カバー、シーツ、布団の襟カバー類の洗濯
	ゴミ箱
浴場	浴槽、ふた、浴槽まわり、床の清掃
	石鹸、シャンプー・リンス
	洗面器
	バスマット
	脱衣かご
	タオル
	内側からの鍵
	のぞかれない配慮
トイレ	トイレットペーパー、すぐわかる場所に予備保管(4名宿泊した場合、1日1ロール以上必要)
	鍵
	生理用品廃棄ボックス
洗面所	清潔なタオル
	新しい石鹸又は補充用石鹸(目につく場所)
	洗面器
	ゴミ箱
食卓	清潔なお箸・食器類、清潔な調味料容器
	清潔なふきん
台所	食品の管理、調理の際の温度管理、冷蔵庫の整理
	肉用まな板と野菜用まな板・包丁の使い分け
	手洗い用石鹸
	除菌消毒剤
	清潔なふきん5枚以上
	消火器
居間や 団らん場所	タバコ、灰皿、マッチ、ライター類は排除しておく
	ヌードや水着、タレントなどが掲載されている週刊誌の保管
	漫画、DVDなどは目に付かない場所へ保管
	個人的なクスリや化粧品などは別に保管
	財布や貴重品、壊されて困る調度品は目に付かない場所に保管しておく
	ざぶとんカバーやコタツカバーなどは洗濯
	他校の生徒の写真や手紙は見せないこと
庭先、道具類	子どもの行動を予測した視点で、庭先や室内の危険個所を点検して対策をしておく
	農機具や道具類などの整理整頓、目につかない場所へ保管
	庭先の柱や縁側などに打たれた釘やでっぱりなど子どもの視点で点検
	灯油缶や燃焼物、危険物などの管理
災害時 2階以上の 部屋対策	停電時の対策 2階窓の落下防止柵 階段からの転落防止用手摺りや階段滑り止め
	避難経路、避難先の確認 非常口や避難経路が荷物などで塞がれていないかの確認
アレルギー その他	動物アレルギー(犬、猫、鳥、モルモットなどのペット、家畜)
	植物アレルギー(うるし、せいたかあわだちそう、すすき、スギ・ヒノキ花粉など)
	食物アレルギー(食物アレルゲン:特定原材料7品目及び特定原材料に準じるもの20品目)
	ダニやハウスダストアレルギー
	スズメバチ、ムカデ・毛虫などの危険な昆虫、は虫類

農林漁家民宿・民泊の点検留意ポイント（簡易版）

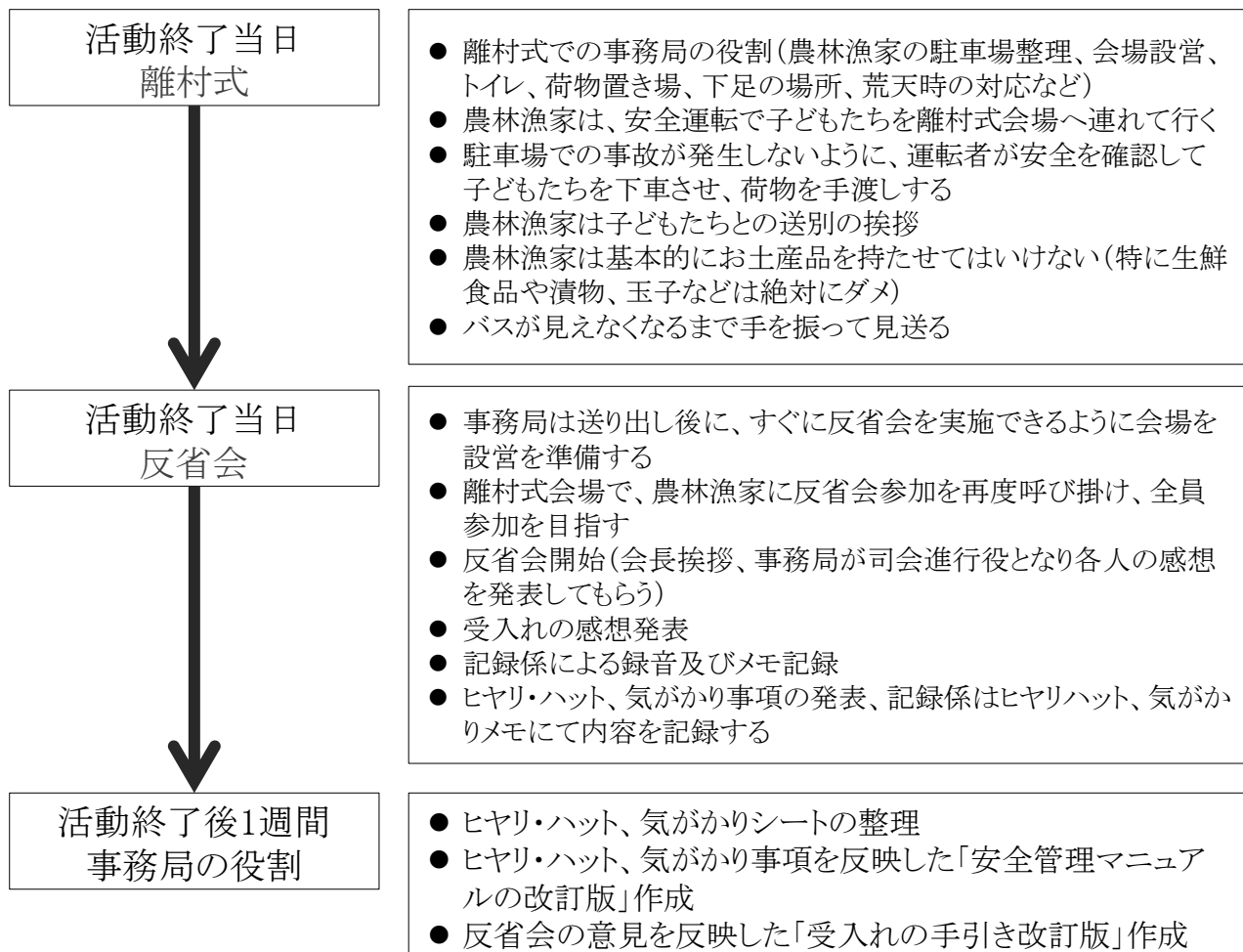
基本：受入れる客層、子どもの視点（身長、行動特性、アレルギー）で点検する

場所	確認内容	場所	確認内容
屋外	☐ お庭・駐車場の危険対策はできていますか？	お家全般	☐ 子どもの視点で（身長やアレルギー、行動予測を推測して）お掃除の点検をしましょう
	☐ 自宅周辺の危険箇所チェックはできていますか？		☐ ペットアレルギー対策 ☐ お庭のウンチやマーキングの清掃 ☐ 犬にはリードをする
	☐ 玄関、靴脱ぎ場、下駄箱整理はできていますか？ 玄関土間はすべりやすすくないか？		☐ 同居家族の体調は良好ですか？ ☐ 盗難防止対策はできていますか？
	☐ 農機具、倉庫、道具類の安全確認はしましたか？	洗面所・台所	☐ 洗面所にせっけんはありますか？ ☐ 台所のゴミ箱は清潔ですか？ ☐ 包丁、まな板の熱湯消毒を心がけましょう ☐ 調理場の臭い・清潔は保たれていますか？ ☐ 冷凍・冷蔵庫の整理整頓は？ ☐ お皿、ボール、食器は清潔ですか？ ☐ 食料品の賞味・消費期限は？ ☐ 爪先は汚れていませんか？ ☐ ふきん、台拭きは清潔ですか？ ☐ キッチンペーパーの常備 ☐ 次亜塩素酸ナトリウムの設置（ノロウイルス対策） ☐ 飲料水の水質検査は？（井戸水の水質検査は保健所で）
	☐ 屋外の洗面所は清潔ですか？		
	☐ 体験場所付近の危険予知はできていますか？		
	☐ 有害動植物や危険回避の対策ができていますか？		
	☐ 雷、突風の場合の対策は考えていますか？		
	☐ 犬にはリードをする 周辺に野良犬や放し飼いの犬はいませんか？		
	☐ 家畜小屋、納屋の整理整頓はできていますか？		
	☐ お座敷、リビング、納戸、台所の整理整頓はできていますか？	知識	☐ アレルギー対策 ☐ 食中毒防止対策 ☐ ノロウイルスの疑いがある場合の対策 ☐ 保健所の講習会で知識をつけておきましょう ☐ 個人情報（健康情報、名簿、住所録）対策は家族で共有できていますか？
	☐ たんす、みずや、テレビ、本棚など地震の耐震対策はできていますか？		
	☐ 消火器、防火用水はありますか？ ☐ 防火対策は大丈夫ですか？ ☐ 避難路はいつも通ることができますか？		
	☐ 万が一の際の避難経路を確保できていますか？再確認をしておきましょう ☐ 懐中電灯の電池残量は？	風呂・トイレ	☐ 風呂の清掃・清潔は？ ☐ シャンプー、せっけんの予備は大丈夫？ トイレの清掃、トイレトペーパーの予備はありますか？ ☐ ティッシュペーパーの予備はありますか？
	☐ コンセント、照明に異常はないか点検確認しておきましょう		

農林漁業体験指導者の身だしなみ留意ポイント

部位	項目	点検
頭・顔	バサバサ髪、ひげ	☐ 頭髮は清潔にする 料理体験では三角巾で髪を覆う
	フケ	☐ 頭や肩口にフケは付いていないか確認する
	洗顔、耳あか、鼻毛	☐ 目ヤニ、鼻毛、耳掃除、歯みがきをする
手	手、爪	☐ 指先は汚れ、爪は切りそろえ、小指の爪も確認
服装	シャツ・上着	☐ 指導時にはボタンはかけておく
	タオル・ハンカチ	☐ 洗濯済みの清潔なものにする
	ズボン	☐ 洗濯済みの清潔なものにする
	靴、靴下	☐ 泥汚れはおとしているか、臭いも点検する
	エプロン・手袋	☐ 洗濯済みの清潔なものにする
エチケット・クセ	ツバ、タン	☐ ツバや痰は見えないところでティッシュを使う
	立ち小便	☐ フィールドでは我慢する
	酒臭い	☐ 前日の酒の臭いを点検する
	タバコ	☐ 体験指導中は絶対に禁煙！受動喫煙はさせない
	ズボンの前チャック	☐ 前ボタンやチャックを点検する
	大声	☐ 叫ばない、大声を上げてことさらに恐怖心をあおらない
	怒鳴る	☐ 怒鳴るのではなく、静かに意味を教えて愛情を持って叱る
	あくび	☐ 子どもの前でもあくびは我慢する
その他	サングラス	☐ 子どもたちと話すときはサングラスはかけない
	ポケット	☐ ポケットに手を入れての体験指導やお話はしない
	携帯電話	☐ 緊急以外は体験中は最小限の使用にとどめる
話し方の指導	ひとりよがり	☐ 自分の思い込みで一方向的に話さない
	視線	☐ 平等に目配りして目を見て話す
	作業の意味	☐ 体験の意味や作業の内容を丁寧に伝える
	体験指導人員	☐ 体験指導者数は、動力を使わない一般的な体験では、お客様5名程度に1人配置を基本とする ☐ リスク評価で事故頻度や衝撃度が高い体験は中止する

活動(受入れ)終了当日の反省会とその後の留意ポイント



次年度年初(体験受入れ前)に各地域で改訂した「安全管理マニュアル」、「受入れの手引き」を使って安全管理・衛生管理講習会を行い、継続した事業として定着を図る！

事故寸前回避事例報告書（ヒヤリ・ハットシート）

記入者氏名：

記入日： 年 月 日

●ヒヤリ・ハットした時の状況と解説をご記入ください ～誰（何）が・どこで・何をした・その他～

●なぜ事故にはいたらずに済んだと思いますか？

◎このヒヤリ・ハットをなくすためにはどのような対策が考えられますか？

①発生日時等

平成 年 月 日（午前・午後） 時頃 天候（晴・曇り・雨・雪） 気温 ℃

②発生現場

屋内・屋外 具体的な場所：

③事例の種類

☐自分が負傷しそうになった ☐参加者が負傷しそうになった ☐第三者同士で負傷させそうになった

④もし、実際の負傷事故の発生に至っていたとしたら…

☐軽症のケガですむ ☐軽症だが医療機関に連れていく ☐全治3週間以上の重症 ☐死亡につながる

⑤どのようなことが起きそうになったか（あてはまるもの全てにチェック）

☐墜落・転落 ☐転倒 ☐激突 ☐飛来・落下物にぶつかる ☐崩壊・倒壊（に巻き込まれる） ☐溺れ
☐（機器等）巻き込まれ、はさまれ ☐切り傷・擦り傷 ☐踏み抜き ☐感電 ☐有害動物と接触
☐有害植物と接触 ☐爆発・破裂 ☐交通事故 ☐ヤケド ☐凍傷 ☐腰痛 ☐骨折 ☐ねんざ
☐退路の消失、寸断 ☐その他：

⑥同様の事例は、これまでどの程度の頻度で発生しているか

☐初めて ☐1年に数度程度 ☐1か月に数度程度 ☐常にある

【原因として考えられること】（あてはまるもの全てにチェック）

・心理・体調 ☐状況からくる焦り ☐注意力の欠如 ☐経験・知識不足 ☐心身の不調
 ・装備・資機材 ☐故障・不具合 ☐誤使用 ☐能力不足 ☐機材がなかった ☐適切でない服装
 ・活動環境 ☐天候が原因 ☐建物等による視覚不良 ☐狭い ☐暑い（寒い）
 ・施設管理 ☐施設の点検不足 ☐施設内外の掃除不足 ☐老朽化 ☐構造上の欠陥
☐説明不足 ☐備品のメンテナンス不足
 ・指示 ☐指示の誤り ☐指示がなかった ☐指示内容が実施困難であった ☐連携が不十分
☐報告が不十分 ☐人数不足 ☐その他：